

アイヌ生活文化再現マニュアル

編む
サラニプ



アイヌ生活文化再現マニュアル

編む

—サラニプ—

財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の設立以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などにより記録し、アイヌ文化の伝承・保存を図る事を目的としています。

今回は、サラニプの製作をマニュアル化しました。

今後より多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目次

はじめに

～材料～

材料採取

| | |
|--------|----|
| シナの皮はぎ | 9 |
| 内皮を煮る | 11 |
| 内皮を洗う | 13 |
| 内皮を乾かす | 13 |

糸つむぎ

| | |
|--------|----|
| 内皮をはがす | 14 |
| 糸をつむぐ | 15 |
| 糸玉を作る | 16 |

～ポンサラニブ・サラニブ・イサロイキブ～

各部名称17

寸法18

材料・道具18

編む

| | |
|-------------|----|
| ピツに糸を巻く | 19 |
| イテセニで編む | 20 |
| ※ポンサラニブ | 23 |
| ※イサロイキブ | 23 |
| もう半分の束を編む | 25 |
| 2束目以降をつなげる | 26 |
| 袋状にする | 27 |
| キマハを編む | 29 |
| パルルケを編む | 30 |
| アトッフを編む | 32 |
| アトッフをキマハに縛る | 34 |

～ラシサラニブ～

| | |
|------------------|----|
| 寸法 | 35 |
| 材料・道具 | 35 |
| 編む | |
| 材料を裂く | 36 |
| 底を編む | 37 |
| 側面を編む | 39 |
| キマハ、パルルケ、アトゥフを編む | 43 |

～チェオシケサラニブ～

| | |
|------------------|----|
| 寸法 | 45 |
| 材料・道具 | 45 |
| 編む | |
| 底の展開図 | 46 |
| 底を編む | 47 |
| 側面を編む | 51 |
| キマハ、パルルケ、アトゥフを編む | 52 |

～パスイオブ～

| | |
|------------------|----|
| 寸法 | 53 |
| 材料・道具 | 53 |
| 編む | |
| 底を編む | 54 |
| 側面を編む | 56 |
| キマハ、パルルケ、アトゥフを編む | 58 |
| おわりに | 59 |
| 参考文献 | 61 |

例 言

- ・本マニュアルでは、材料名などについては、日本語で表記し、萱野れい子氏がアイヌ語を使用しているものに限りに、[] 内に、カタカナでアイヌ語を入れています。なお、「サラニブの尻の穴」などのように、日本語を多用すると読みづらくなるものについては、初出以降はアイヌ語名を用い、「キマハ」のように日本語に訳しにくいものは、初出からアイヌ語名を使用しています。
- ・アイヌ語については、監修者の萱野茂氏の指導に、アイヌ語の表記については「アコロイタク」（社団法人北海道ウタリ協会 企画・編集）に基づいています。
- ・本マニュアルでは、できあがりの寸法や材料の寸法を具体的に記載していますが、これは、製作時の利便を考慮したものです。

はじめに

アイヌは木の皮を材料に、衣服や袋、かごなどの生活用具を作ってきました。サラニフもそのひとつです。

本マニュアルでは、萱野れい子さんが中心となって編む、サラニフ、ポンサラニフ、イサロイキフ、ラシサラニフ、チェオシケサラニフ、パスイオフの作り方を紹介します。

サラニフは5升（約9リットル）、ポンサラニフは1升（約1.8リットル）、イサロイキフは2斗（約36リットル）くらいの大きさです。サラニフは、山・川・畑などへ出かける時、弁当や道具、山菜を入れるなど様々な用途で、ポンサラニフは主に子どもたちに、イサロイキフは、穀物の持ち運びに使われてきました。

ラシサラニフは、置くだけで口を開いているので、つま取ったヒエやアワの穂を入れる袋として使われてきました。収穫の時期になると、これを引っ張って畑の中を移動、穂がいっぱいになると、イサロイキフなどに移して家まで持ち帰ったと言います。

チェオシケサラニフは、編み機を使わない編み方で、サラニフと同じように使われてきました。

パスイオフは、箸を入れる袋で、サラニフなどに縛り付けて歩いたと言います。

これらの袋類には、アイヌの知恵が丹念に編み込まれています。





萱野れい子

1931年（昭和6年）生まれ。北海道沙流郡平取町二風谷在住。萱野茂二風谷アイヌ資料館館長である夫の茂さんとともに、アイヌ文化の伝承に力を注いできた。サラニブのほか、着物・花ごご・背負い縄、刀提げ帯などを作る手仕事を得意とする。



木幡サチ子

本マニュアルでは、萱野さんの指導のもと、イサロイキブを製作。



川奈野元子

本マニュアルでは、萱野さんの指導のもと、ボンサラニブを製作。

材 料



シナ

材料採取

シナの皮はぎ

サラニアの材料は、シナの木の皮から採ります。皮をはぐ時期は、5月～6月中旬までがはぎやすく、適しています。直径10～30cmに成長した、枝が少なくまっすぐな木を選びます。

シナにはアオジナと言われるオオバボダイジュと、アカジナと言われるシナノキの2種類があります。葉が大きくて幹が青いアオジナの方が材料に適しています。

1. 幹に、水平に切り込みを入れたあと、垂直方向にも切り込みを入れます。



2. ナタを皮の中に差し込み、幅7～8cmほどにはがします。



3. これを引っ張って、上まではがしていきます。一見まっすぐの木でも、皮がねじれている場合もあるので、はいてみなければ良い材料かは分かりません。木の皮が枝に引っ掛かって、それ以上はがれなくなった場合は、皮をねじって引きちぎります。



4. 皮をはいだらすぐに、内皮と外皮をはがします。材料として使うのは、内皮です。皮の中央を折って、逆立った外皮を引っ張ってはがします。このとき、内皮が薄くなっていかないように気をつけてはぎます。



5. 内皮を集めて持ち帰りやすいように、丸めて束を作ります。シナの内皮を「ニペシ」と言います。



6. 風で樹皮がはがれないように、皮の切れ端を使って、はいだあとの幹を縛っておきます。皮をはぐのは幹の1周の3分の1くらいまでにします。全部はいでしまうと木が枯れてしまうからです。



2年前にはいだこの木は、全てをはがなかったのが枯れずに成長しています。



内皮を煮る

1. 内皮をやわらかくするために煮ます。1枚ずつ丸めて中央を縛っておき、釜に入れて水を皮が全て浸るまで入れます。

※ラッサラニフの材料となる内皮は、この処理をしません。



2. 火をつけてすぐにニベシの上に、薪の燃えかす・木灰をかけ、強火で煮込みます。最近では木灰が手に入りにくいので、代わりに苛性ソーダを使うこともあります。煮る方法以外に、真夏の沼のなかに1週間内皮を沈めておく方法や、温泉など温かい水に浸しておく方法もあります。



3. 白くて硬いところがなくなるまで煮ます。1時間40分後、十分にやわらかくなりました。



内皮を洗う

1. 川で、ぬめりがなくなるまで、揉むようにして洗います。



内皮を乾かす

1. 洗ったあとは、乾かして保存します。乾いてはがれ落ちないように、端を縛って物干し竿 [クマ] につけ、1週間ほど風にさらします。雨に1~2回当たると色が落ちて良い色になると言います。この煮たシナの皮のことを [チポナテニペシ] と言います。乾燥した内皮は、何年でも保存できます。



糸つむぎ

内皮をはがす [ソシヌレ]

1. 内皮から糸を作ります。乾いた内皮を水につけてやわらかくします。



2. 内皮は幾層にも分かれているので、それを1枚ずつはがしていきます。この材料はアオジナのもので、よくはがれます。アカジナのものではうまくはがれないと言います。



3. はがれた皮を5～7mmほどの幅に裂きます。人差し指と中指、そして薬指で挟むようにすると、1度で2本裂けるので効率がよいです。

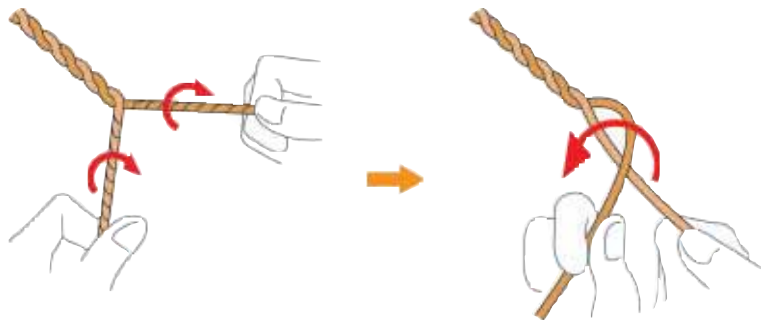


糸をつむぐ [カエカ]

1. 裂いた内皮をよって、糸を作ります。



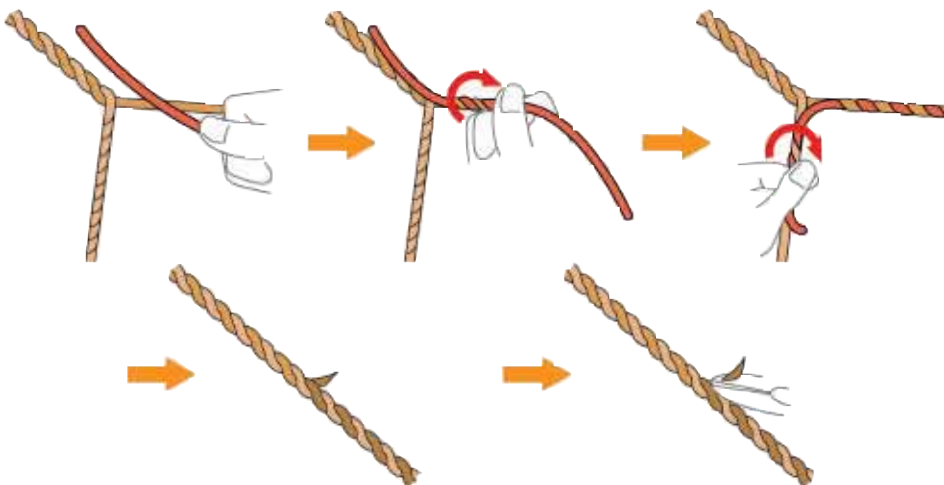
2. 左右の人差し指と親指を使って、正面に向かって時計回りにねじり、時計と反対回りに2本よりにします。



3. 皮の片方を短くしておくのと、よる時に絡まるのを防げます。



4. 片方の皮が5 cmほどになったら、皮を足します。短いほうに絡ませたあと、長いほうに絡めて、それからよっていきます。足した皮の先は飛び出すのでハサミで切り取ります。



糸玉 [カタク] を作る

1. 糸玉を作ります。人差し指と親指に6回ほど巻いて輪をつくります。



2. 輪の中央に4～5回ほど巻きつけます。



3. 親指に糸をかけて輪を作り、10回ほど巻いたところで角度を変えて、これを繰り返して玉を大きくしていきます。親指は巻き終わるまで扶んでおき、最後は巻いた糸にひっかけて留めます。こうすることで、糸玉の内側から糸が伸びるので、使うときに糸玉が転がりません。



ポンサラニプ・サラニプ・イサロイキプ

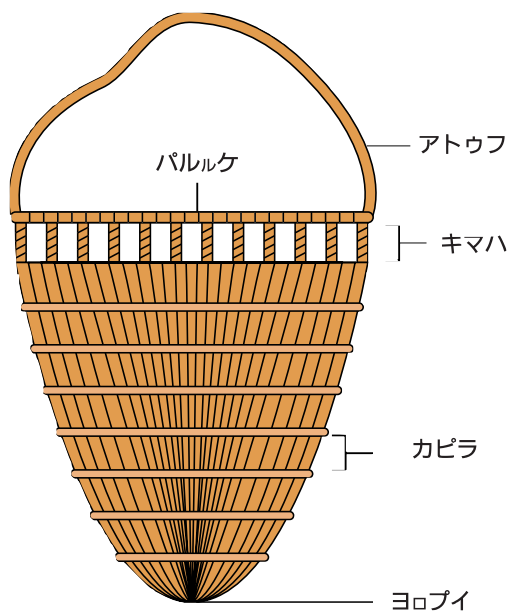


ポンサラニプ

サラニプ

イサロイキプ

各部名称



これら3品の編み方はほとんど同じです。そこでサラニプを基本に紹介し、ポンサラニプとイサロイキプについては、異なる部分だけ紹介します。

寸法

| | | | | |
|--------|-------------|-------|---------|-------|
| ボンサラニブ | 高さ33cm | 幅28cm | | |
| | キマハとパルルケの高さ | 5cm | アトッフの長さ | 115cm |
| サラニブ | 高さ47cm | 幅40cm | | |
| | キマハとパルルケの高さ | 5cm | アトッフの長さ | 145cm |
| イサロイキブ | 高さ70cm | 幅62cm | | |
| | キマハとパルルケの高さ | 6cm | アトッフの長さ | 2m |

材料・道具

・煮たシナの皮の束 [ニペシエンポチ]

| | | | |
|--------|--------|---------|----------|
| ボンサラニブ | 長さ1.2m | 重さ185g | おおむね80本 |
| サラニブ | 長さ1.4m | 重さ330g | おおむね120本 |
| イサロイキブ | 長さ2m | 重さ1095g | おおむね150本 |



・編み糸 [イテセカ] (幅1.5mm)

| | | | | |
|--------|-------|----------|----------|-------|
| ボンサラニブ | 2m×2本 | 3m×9本 | 合計11本 | |
| サラニブ | 2m×2本 | 4.8m×14本 | 合計16本 | |
| イサロイキブ | 2m×1本 | 4m×1本 | 5.6m×19本 | 合計21本 |

・編み機 [イテセニ]



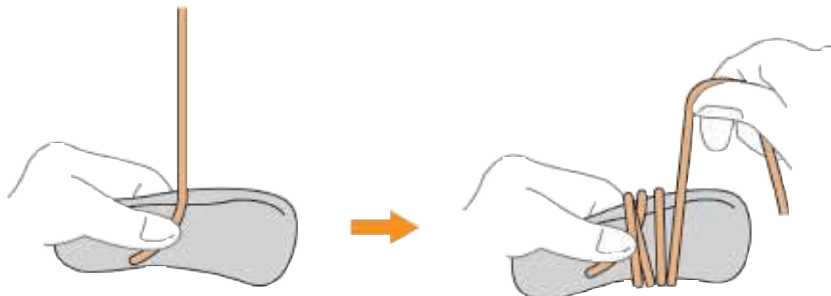
・ 錘り石 [ピツ] 糸が滑らないように、表面がざらざらとしたものを使います。



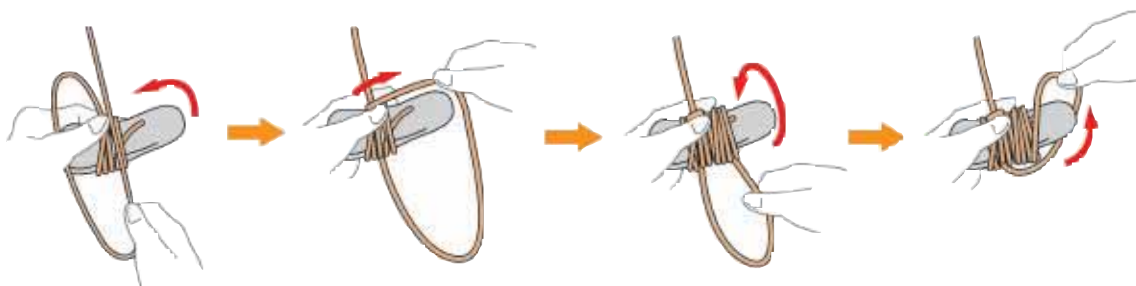
編む

ピツに糸を巻く

1. あらかじめ編み糸の中央に目印をつけてから、糸の端をピツに5回くらい巻き付けます。



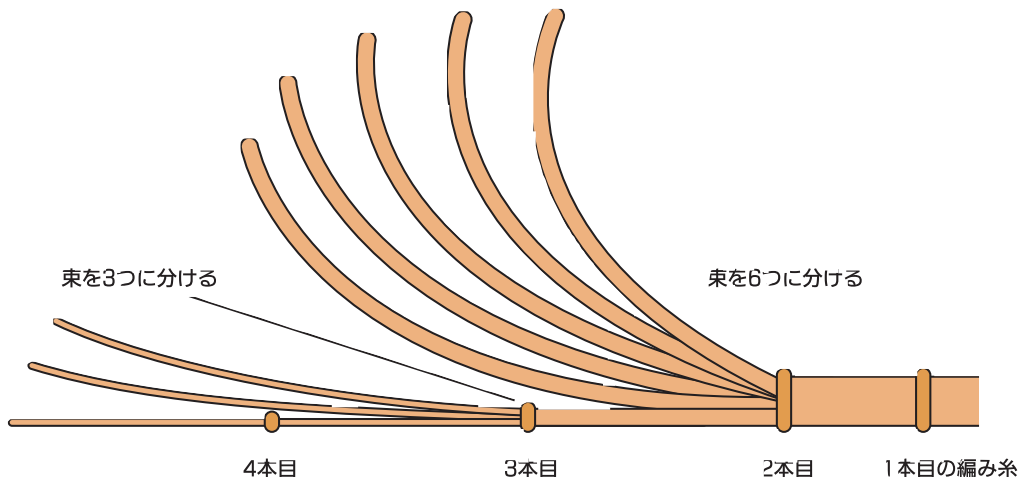
2. ピツを逆さにして、編み糸の中央に近い部分をピツに当て、できた輪を全てピツに巻き付けていきます。最後は輪を引っ掛けて垂らしておきます。編み糸が短くなったら、ピツから輪を外して長さを調節します。



3. これを編み糸の両端に施し、イテセニの溝にかけます。垂らす長さは床に触れないくらいです。糸と糸の間を「カピラ」と言います。今回作るサラニフのカピラは3cmです。サラニフの尻の穴「ヨロプイ」に一番近い編み糸の幅は、ほかの半分にしておきます。こうすることで、底がきれいに丸くなると言います。



イテセニで編む



1. サラニフの材料を4束に分けて、1束の中央をイテセニに載せ、まずは1束の半分を編みます。



2. ヨロプイに一番近い1本目の編み糸をかけて、2回まわしてイテセニに縛り付けておきます。



3. ヨロプイから2本目の編み糸をシナの皮の束に絡めます。



4. ここで束を6つに分けます。



5. そのうちのひとつに3本目の編み糸を絡めます。



6. ここで束を3つに分けます。



7. 分けた束のひとつを最後まで編み込んでいきます。
2つ目、3つ目も同じように最後まで編みます。



8. 編み方は、手前の糸を左から奥に回して、奥の糸を右側から手前に取ってきます。



9. 2本目の編み糸で6つに分けた残りの5束も、これまでと同じように編みます。

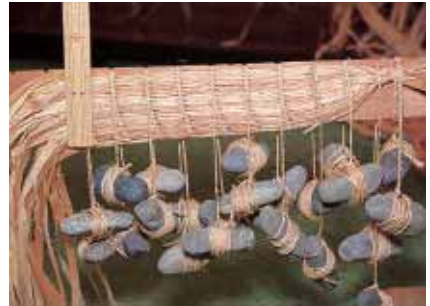
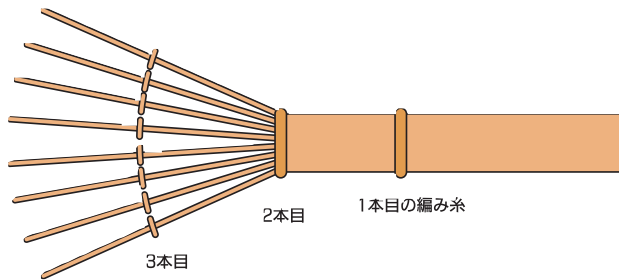


10. サラニブは口の幅を考えて皮の本数を調節します。
本数が足りない場合は皮を足すこともあります。



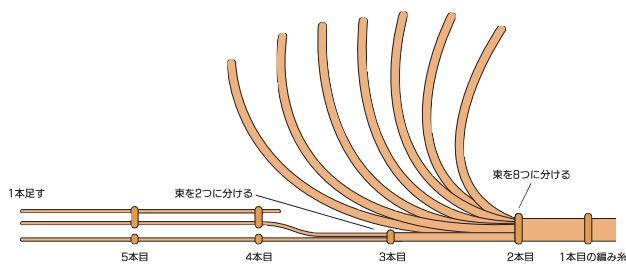
※ポンサラニツ

1. ポンサラニツの編み方も、サラニツとほとんど同じです。ただし3本目の編み糸で束を分けずに、1つずつ編んでいきます。



※イサロイキツ

1. 2本目の編み糸を絡めたら、束を8つに分けます。



2. そのうちの1つを3本目の編み糸に絡めます。



3. ここで束を2つに分けて、4本目の編み糸を絡め、最後まで編み込みます。イサロイキフは長いので、間を抜きながら編み、皮が張るように工夫します。



4. 残った1つの束に、皮を1本足し、4本目の編み糸を絡めます。



5. ここから足した糸を最後まで編み、次に残った皮も最後まで編み、このあと2つおきに、皮を足して編みます。



もう半分の束を編む

1. サラニブの1束の半分が編み終わると、編み糸の1本目をほどいて、1回だけ絡ませておき、中央から折り返して残りの半分の束を編みます。



2. 1本目の編み糸を絡めて、再び2回まわして縛っておきます。



3. 2本目の編み糸を絡めたら6つに分け、初めの半分の束と同じように編んでいきます。



2 束目以降をつなげる

1. 折り返して1束編み終わると、2束目をつなげます。編み方は、1束目と同じです。



2. このようにして、4束つなげたら、袋の下地ができあがりです。



3. 束の一番端の編み糸は結んでおきます。



4. 編み糸の余りを12cmほど残して切ります。



袋状にする

1. ヨロプイに一番近い編み糸は長めに残しておき、束を折り返してできた穴に通します。



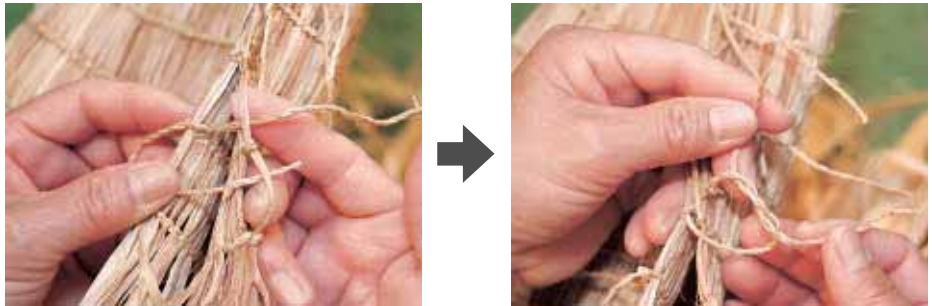
2. 3回玉結びをします。



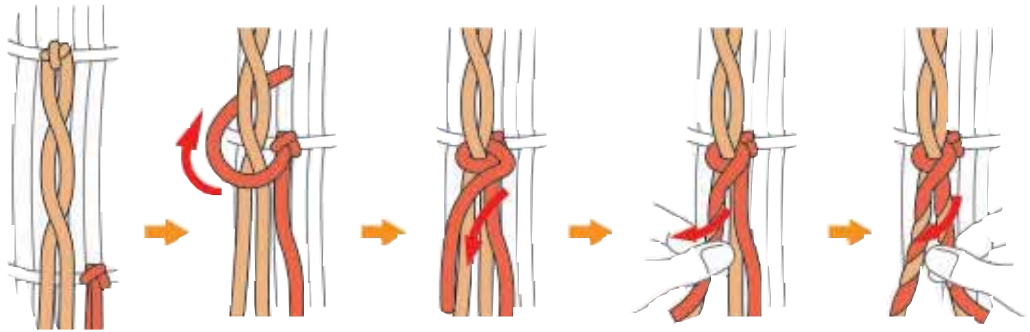
3. 2本目の編み糸は、編み始めの糸に通して縛っておきます。



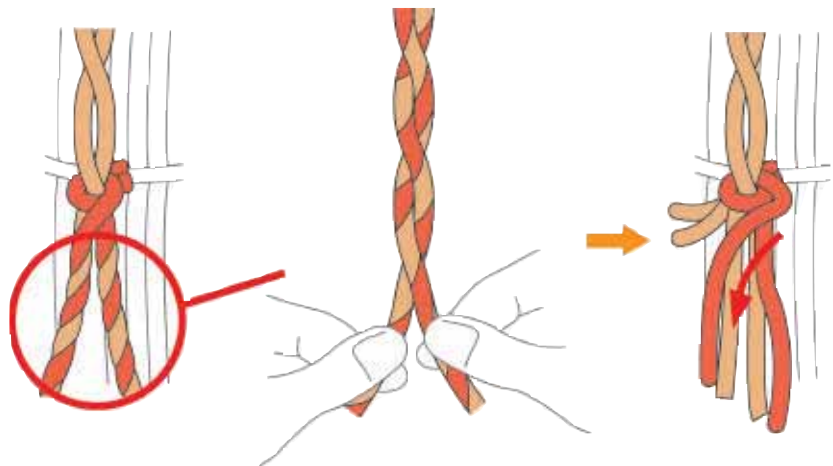
4. 3本目の編み糸は、編み始めのシナの皮1本に、編み糸の両側から通して縛り付けます。残りの編み糸も同じように縛ります。



5. 2本目の編み糸を縛って余った糸は、時計回りによじって、3本目の編み糸を1本絡めます。



6. 2本ずつを時計と反対回りによじりながら、時計回りによって、4本目の糸を絡めます。このように、余った編み糸を最後までつなげていきます。



7. 途中で短くなって飛びだした糸と、ヨロビイに一番近い糸は切っておきます。



8. 最後までつなげたら、裏返します。すると、表からはつなぎ目が見えなくなります。



キマハを編む

1. 裏をつないだ糸を絡めて、三つ編みをします。おおむねシナの皮5～6本分の幅で1本を編み、端は仮止めしておきます。これを繰り返して全てを三つ編みします。



2. 長さは初めの2本だけ8cm、残りは4cmほどにしておきます。



パルルケを編む

1. キマハを横に三つ編みをして、パルルケを作ります。



2. この時全ての皮を編んでいくと、だんだん太くなるので、途中、少しずつ裏側に残して編んでいきます。



3. パルルケが編み上がる3本ほど手前から、長いシナの皮を足していきます。これは、この三つ編みをそのままひも部分アトッフにつなげていくためです。



4. 最後は最初の三つ編みでできた輪を通し、アトッフへと立ち上げていきます。



アトッフを編む

1. アトッフもパルルケから続けて三つ編みをしていきます。



2. アトッフがある程度立ち上がったら、いったん仮止めをして、パルルケの裏側に残した皮を切り落とします。この時あまり短く切りすぎると抜けてしまうので注意を払います。



3. アトッフの三つ編みは、長い皮を足しながら行い、付け根よりも次第に細くしていきます。



4. 120cmほど編んだら、皮を2束に分けて、20cmほどを2本よりにします。



5. 先端は、1度縛って留め、余った皮は切り落とします。



アトッフをキマハに縛る

1. アトッフを付け根のひとつ隣のキマハに通し、さらにできた輪を通します。



2. 今度は反対側のキマハに通して1度縛り、さらに輪をつくって縛ります。これでサラニブのできあがりです。



3. できあがったサラニブには、火山灰あるいは豆を入れて一晩おき、形を整えます。



ラシサラニプ



寸法

高さ39cm 横45cm 奥行き37cm
アトッフとパルルケの高さ6cm アトッフの長さ175cm

材料・道具

・生のシナの皮 [フニペシ]



・よった糸4.6m×2本
よじれないように、両端を8の字に巻いておきます。



・型枠と型紙

編む

材料を裂く

1. 皮を採取してすぐに作る場合はそのまま編みますが、皮を乾燥させた場合は一晩くらいぬるま湯につけてやわらかくしておきます。



2. 皮を幅1.5cmほどに裂きます。皮は厚いので目打ちなどを使うと便利です。



3. 裂いた皮を厚さ1mmほどに裂きます。長さ180cmのものを27本、170cmのものを28本、そして側面を編む皮、アトッフの分を長めに用意しておきます。



底を編む

1. あらかじめ底の大きさを決めておき、型紙の上に長さ180cmの皮を平行に27本並べていきます。皮の白いほうを下にして並べます。こうすると、できあがったとき、白いほうが外側になります。



2. 今度は1本ごとに交差させて、垂直に皮を並べます。2本目は1本目で下になった皮を上を持ち上げて差し込み、1本目にくっつけます。



3. 平行に並べた皮を折り曲げて締め付け、隙間ができないようにします。



4. このように交互に皮を差し込むことを繰り返して、長さ180cmの皮（図では水平方向）を27本、170cmの皮を28本交差させます。



5. 幅が足りない材料には皮を足して、幅を調節します。材料を大切に使うのです。皮の先端は交差した皮の上に出しておきます。



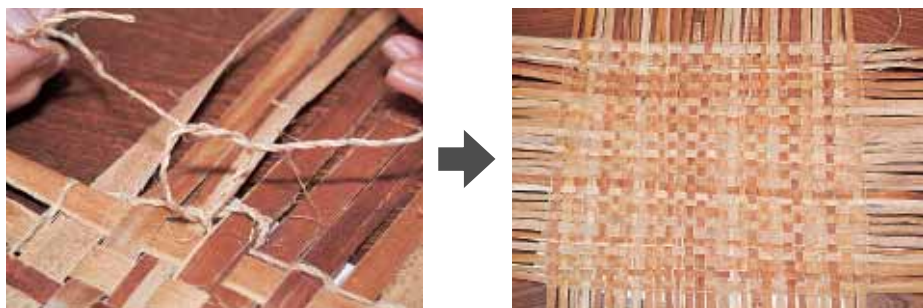
6. 全て並べ終わると、底が崩れないように糸で編みます。糸の中央を1本の皮にかけて、1本ずつ絡めていきます。編む時にねじる方向は時計回りです。



7. 1周したら、初めに掛けた糸に通します。



8. しっかりと縛っておきます。これで底が編み上がりました。



側面を編む

1. 余った皮が側面になります。底から立ち上がる部分に折り目をつけます。



2. これを裏返し、底の面積が同じ型枠の上に載せませす。



3. 縦の皮に編み皮を絡めていきます。これも1本ずつ交互に差し込んでいきます。



4. 1周したところで、縦の皮を奇数にするために1本足します。足した皮の先端は、交差した皮の下に隠しておきます。縦の皮を奇数にすることで、編み皮をらせん状に編んでいくことができます。



足した皮

5. 編み皮が足りなくなると、縦の皮10本分ほど重ねて皮を足します。



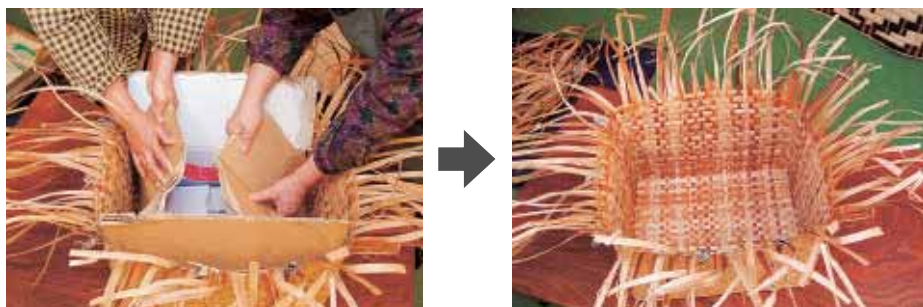
6. 目打ちで締め上げるようにして、隙間ができないようにします。



7. 編み皮は、編み始めと同じところで編み終わるようにします。これで側面が編み上がりました。



8. 逆さにして型枠を抜き取ります。型枠にダンボールを使ったのは、潰して抜き取りやすくするためです。ダンボールがない時代には、積み木のように組み合わせた木を使って抜き取りやすく工夫したと言います。



9. 底と同じように、上の部分も型くずれしないように糸で編んでおきます。



10. 1周したら、初めに引っ掛けた糸の下を通します。



11. 2回ほど玉結びをして、この糸は10cmほど残して切っておきます。



キマハ、パルルケ、アトッフを編む

1. 余った縦の皮に、湯をかけてやわらかくします。



2. 1本の皮を幅3mmほどで3～4本に裂きます。



3. ここからは、ほかのサラニプと同じように編みます。
三つ編みをする時、上の部分を縛って余った糸も一緒に編み込みます。



4. アトッフにも幅3mmほどに裂いた生皮を使います。



5. 先端は、仮止めと同じ方法で結び、余った皮は切り落とします。



6. キマハにアトッフを縛って、ラシサラニフのできあがりです。



チェオシケサラニプ



寸法

高さ28cm 直径32cm キマハとパルルケの高さ6cm アトッフの長さ153cm

材料・道具

- ・縦糸 幅3mm 長さ1.5m 163本ほか、アトッフ分の糸を数本
- ・編み糸 幅1.5mm 長さ51m



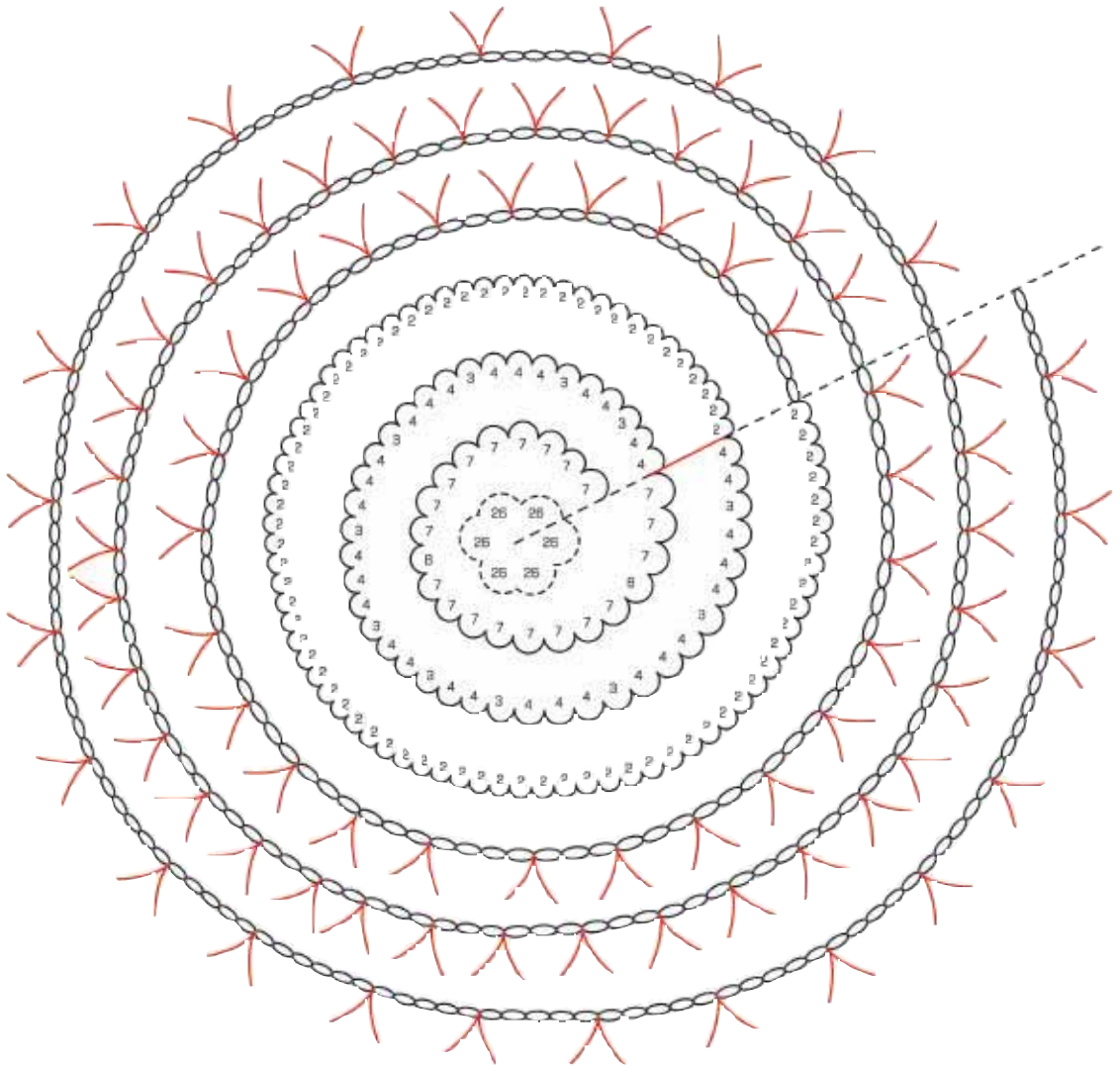
- ・ぶどうづるを輪にした道具 [カリブ]



編む

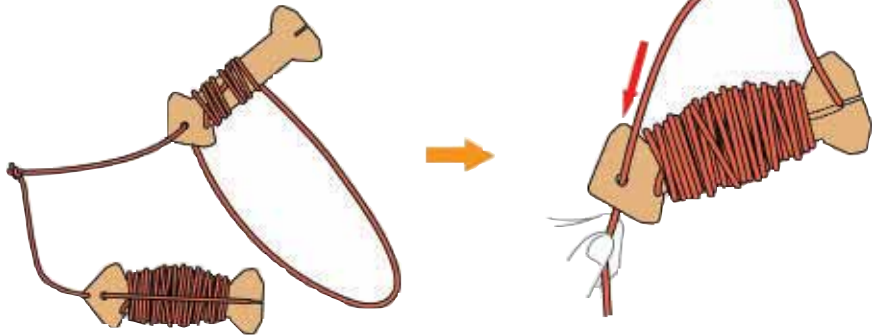
底の展開図

○ は2本取り
糸を足すところ

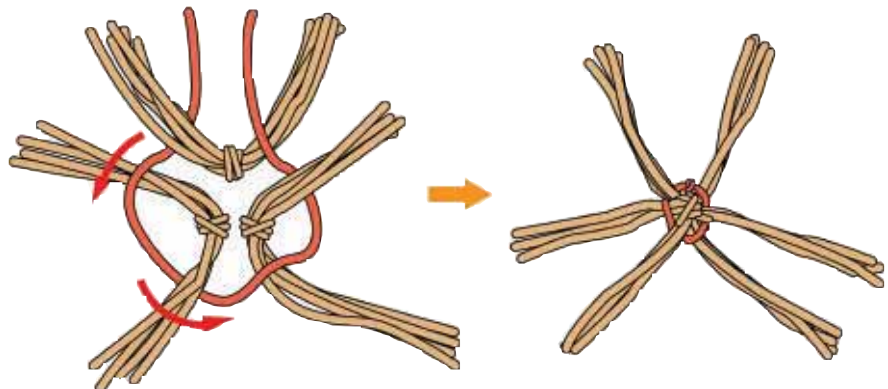


底を編む

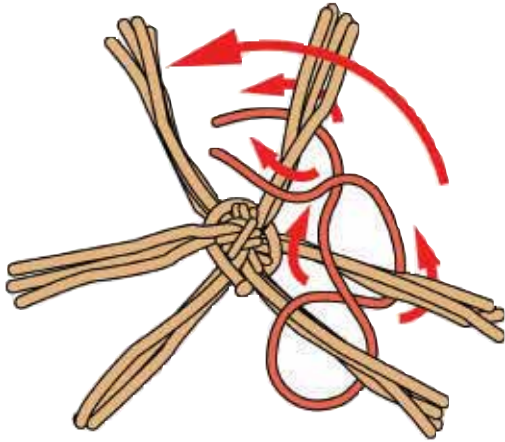
1. 編み糸を糸巻きに巻いておきます。糸の中央近くまで一度糸を通し、端から巻き付けて最後は輪を引っ掛けておきます。この糸巻きは、現代になって考案されたもので、かつては糸玉のまま編んでいました。



2. 縦糸26本の束を3つ、束の中央を縛ってくっつけます。別の糸を互い違いに通し、3つの束を縛ります。この段階で縦糸は156本になります。



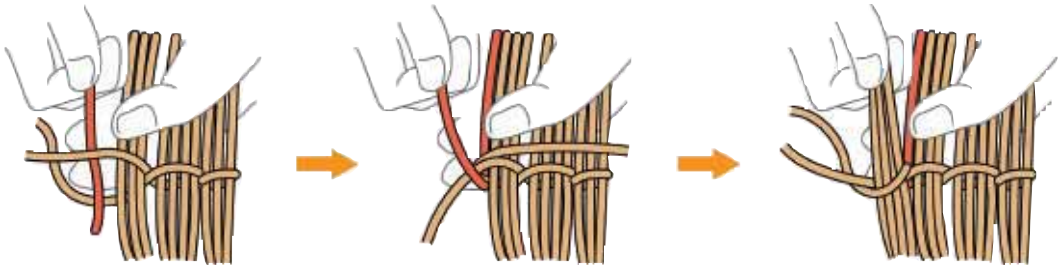
- つなげてできた6本の束を、時計回りの方向でねじりながら編み、固く結びます（チェオシケサラニブのヨロプイは、人それぞれの編み方があり、中央を三つ編みにした束を重ねて作る方法もあります）。



- ヨロプイから2 cmほど離れたところに編み糸を掛けます。縦糸を7本ずつ取って編み糸を掛け、らせん状に編んでいきます。縦糸の数の関係から、8本取るところが2箇所だけです。



5. 2周目の初めには、縦糸を1本足します。これは後で編み目を揃えるための仕掛けです。足した縦糸の一端は裏で止めるので、縦糸は157本になります。



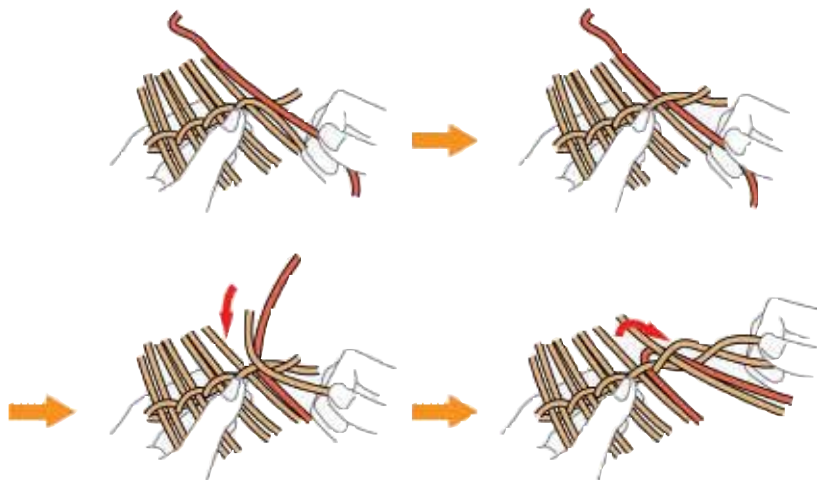
6. 2周目は、縦糸4本を3回、3本を1回取り、これを繰り返します。縦糸の数の関係から、4本を2回取るところもあります。



7. 3周目からは、縦糸を2本ずつ取って編みます。



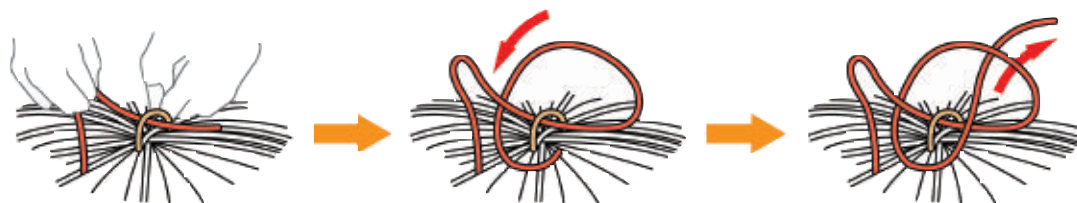
8. 4周目は、3束おいて、縦糸を1本足します。1本足すことで、2本増えることになります。このようにして、4周目で50本、5周目で70本、6周目で48本を増やし、縦糸が合わせて325本になるようにし、底の幅を広げていきます。



9. 7周目からは底の幅が決まったので、縦糸を足さずにそのまま編んでいきます。



10. 7周目が終わったところで裏返し、2周目で足した縦糸が抜けないように、片方の端をヨロプイに一番近い編み糸に絡めて縛っておきます。



側面を編む

1. もう一度裏返し、カリブを下に入れ、天井から吊します。チェオシケサラニブを編んでいる様子は、髪をバサバサにしたお化けのように見えるので、編みおろしている袋を頭からかぶったようなお化け婆〔チェオシケサラニブ ヘウシアペコロアン ニタウナラペ〕と表現します。



2. カリブを入れて天井から吊すことで、8周目で底の形が付き、チェオシケサラニブは回転するので、常に目の前で編むことができます。

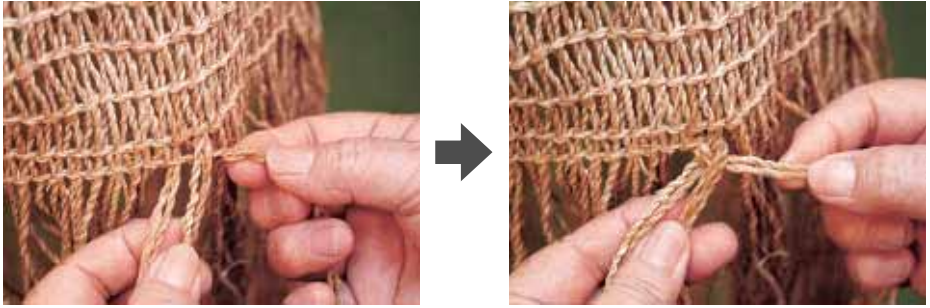


3. 2周目で縦糸を1本足したことによって、縦糸が奇数になり、2本取りして編むと編み目が互い違いに揃います。



キマハ、パルルケ、アトッフを編む

1. 21周したところで20周目に近づけ、そこからキマハの三つ編みへとつなげていきます。1本三つ編みをしたらカリブを外し、キマハとパルルケを編んでいきます。編み方はほかのサラニブと同じです。



2. アトッフは少しずつ細くしていき、途中から6本で三つ編みをします。最後の45cmほどは2本よりにします。



3. これで、チェオシケサラニブのできあがりです。



パスイオプ



寸法

高さ21cm 直径5cm キマハとパルルケの高さ2cm アトッフの長さ44cm

材料・道具

- ・縦糸 幅2mm 長さ80cm 16本ほか、アトッフ分の糸を数本
- ・編み糸 幅1mm 長さ23m

- ・底の大きさの型紙



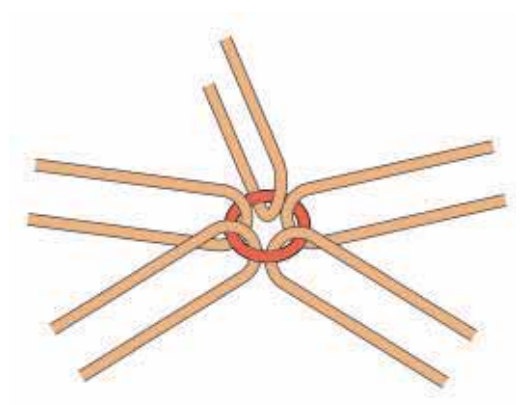
編む

底を編む

1. 縦糸を1本の束にして、中央を縛ります。



2. 縛ったところから、上下に折り返して放射状に開きます。



3. 棒の上に乗せて、叩いて形を付けます。



4. 中央の穴をピンで留めておきます。こうすることで縦糸が回転するので、常に目の前で編むことができます。ヨロイから1 cmほどのところの上糸に編み糸を掛けて、編み込みます。編む時にねじる方向は、時計回りです。



5. 下糸を取って編み込みます。次に上糸を取って編み込み、これを繰り返します。



6. 2周目からは、前の周にくっつけて編み、これを7周します。この部分が底となります。

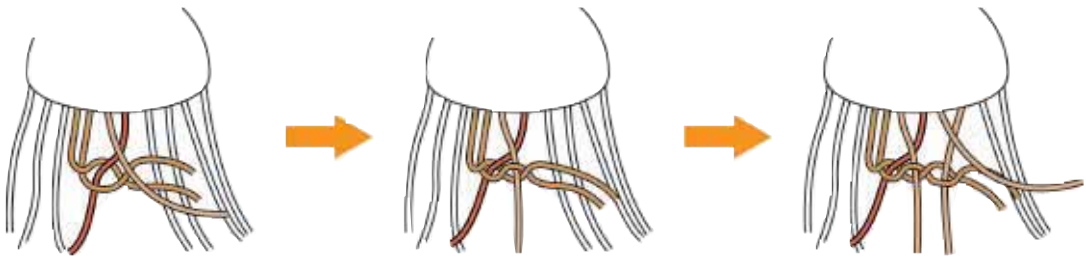


側面を編む

1. 底の大きさの型紙を付けた糸を、ヨロプイに通して上から吊します。



2. ここから側面を編んでいきます。1本奥の縦糸を取って編み込み、手前の糸を取って編み込みます。次に奥の糸を取って編み込み、これを繰り返します。



3. 前の周の編み糸とは、7mmくらい間隔をあけ、この編み方を19周行います。



4. 今度は縦糸を交差させることなく、縦糸を順番に編み込んでいきます。編み糸の間隔は、前の編み方と同じです。



5. これを3周して、4周目は前の周に近づけてくっつけ、ここで下におろします。



キマハ、パルルケ、アトッフを編む

1. 編み糸から続けてキマハの三つ編みをします。キマハとパルルケの編み方は、ほかのサラニツと同じです。アトッフは10cmほど三つ編みをします。



2. 残り34cmは2本よりにして、先を結んでおきます。これでパスイOPPのできあがりです。



おわりに

アイヌは道具を大切に使ってきました。昔話 [ウウェベケレ] には、サラニブが困っていた子どもを助けて育てたという話も残っています。サラニブはそれだけ生活に欠かせないものであり、大切なものだったのです。

古くなったサラニブは、家の外にあった祭壇にまつり、ヒエやアワなどを供えて感謝の気持ちを表してから処分したと言います。

サラニブは実用的であることもあって、今も多くの人が活用しています。



参 考 文 献

サラニプの製作にあたって、参考となる文献をいくつか紹介します。

- アイヌ文化保存対策協議会
1969：『アイヌ民族誌』第一法規出版
- 沖野慎二
1996：「サラニプの使用法に関する一考察」『アイヌ文化』20 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会
- 萱野茂著 アイヌの民具刊行運動委員会編
1978：『アイヌの民具』すずさわ書店
- 萱野茂
2002：『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』三省堂
- 知里真希
2003：「アイヌブリ・バスケット」『アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告』2
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 津田命子
1996：「サラニプの種類と道具を使わない製作方法について」『アイヌ文化』20
財団法人アイヌ無形文化伝承保存会
- 津田命子
1997：「アイヌの手芸を学ぶ」『おしゃれ工房』9 通巻390号 日本放送出版協会
- 辻井達一 梅沢俊 佐藤孝夫
1992：『新版 北海道の樹』北海道大学図書刊行会
- 出利葉浩司 津田命子
1993：「北海道開拓記念館蔵『ラシサラニプ』の復元的研究」
『北海道開拓記念館調査報告』32 北海道開拓記念館

サラニブを展示・収蔵している施設

サラニブを展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

北海道内

- | | |
|----------------------------|---------------|
| ●財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草町2-3-4 |
| ●財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | 札幌市中央区北1条西7丁目 |
| ●旭川市博物館 | 旭川市神楽3条7丁目 |
| ●網走市立郷土博物館 | 網走市桂町1-1-3 |
| ●浦河町立郷土博物館 | 浦河町字西幌別273 |
| ●帯広百年記念館 | 帯広市緑が丘2 |
| ●萱野茂・二風谷アイヌ資料館 | 平取町字二風谷 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター サッポロピリカコタン | 札幌市南区小金湯27 |
| ●静内町アイヌ民俗資料館 | 静内町真歌 |
| ●標津町歴史民俗資料館 | 標津町字伊茶仁278 |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字弟子屈276-1 |
| ●苫小牧市博物館 | 苫小牧市末広町3-9-7 |
| ●名寄市北国博物館 | 名寄市緑丘222 |
| ●函館市北方民族資料館 | 函館市末広町 |
| ●美幌博物館 | 美幌町字美禽253-4 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷 |
| ●北海道大学農学部附属博物館 | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道開拓記念館 | 札幌市厚別区厚別町小野幌 |
| ●北海道立アイヌ総合センター | 札幌市中央区北2条西7丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館 | 網走市字塩見313-1 |
| ●幕別町蝦夷文化考古館 | 幕別町千住114-1 |
| ●室蘭市民俗資料館 | 室蘭市陣屋町2-4-25 |

北海道外

- | | |
|-----------------|------------------|
| ●稽古館 | 青森市大字浜田玉川207-1 |
| ●東北福祉大学芹沢介美術工芸館 | 仙台市青葉区国見1-8-1 |
| ●東京国立博物館 | 東京都台東区上野公園13-9 |
| ●アイヌ文化交流センター | 東京都中央区八重洲2丁目4-13 |
| ●国立民族学博物館 | 吹田市千里万博公園10-1 |
| ●大阪府立近つ飛鳥博物館 | 大阪府河内郡河南町大字東山299 |
| ●大阪人権博物館 | 大阪市浪速区浪速西3-6-36 |
| ●天理大学付属天理参考館 | 天理市布留町1 |
| ●松浦武四郎記念館 | 三重県三雲町大字小野江383 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
編むーサラニプー

2004年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171/FAX (011) 271-4181

監修 萱野 茂

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

